

山間地の特色ある気候を活かし地域を彩る「株式会社金子農園」
～親子二代で築き上げた利雪型花き生産の取り組み～

株式会社金子農園
代表取締役 金子光弥（西川町）

1 受賞者の概要

親子二代に渡り西川町で花き生産に取り組み、地域の気候を活かした栽培技術の確立を図りながら規模拡大を進め、令和2年に株式会社金子農園を設立した。主な栽培品目は啓翁桜（4.2ha）とスノーボール（2.7ha）であり、家族4人と雇用1名体制で経営している。



2 特色ある活動

(1) 気候を活かしたスノーボールの長期出荷の取り組み

県内有数の豪雪地帯である西川町大井沢の特徴を活かし、積雪を活用したスノーボールの露地抑制栽培を実践している。特にブライダル需要が多い6月以降の生産の安定・品質向上を図るため、雪害対策や出荷分散のための利雪、切り枝長を確保するための夏季管理等、工夫を凝らしている。また、ハウスでの促成栽培と組み合わせることで、2月から7月までの長期出荷を実現している。



(2) 啓翁桜による西川町農業振興への貢献

西川町啓翁桜生産組合の組合長として、若手農業者への栽培技術指導を行うとともに、啓翁桜1億円産地を目指す「西川町啓翁桜生産拡大プロジェクト」や、輸出強化を目標とし品質の均一化や安定的な輸出数量の維持、プロモーション活動に取り組む「西川町啓翁桜PRプロジェクト協議会」に参画し、地域の啓翁桜生産振興を牽引する役割を担っている。

(3) 新たな担い手の確保・育成の取り組み

西川町農業担い手育成協議会の会員として、農業体験や農業研修生の受け入れを積極的に行い、西川町の農地を守るための取り組みを行っている。

さらには、西川町内のみならず、近隣市町の新規就農者からの花き栽培に対する助言・指導要請にも親身になって対応し、若手農業者の育成にも尽力している。

3 今後の発展方向

高齢の両親のリタイアを見据え、雇用の充実を図ることを目的に、令和2年に法人化し、社会保険等を整備した。今後は、新たな人材の確保・育成に力を入れていきたいと考えている。

生産面では、8月～10月の花き生産の充実を図るため、西川町の気候に適した新たな鉢物の導入に向けて試作を進めている。特にスノーボールは、10月の秋のブライダル需要も多いことから、これまで以上に出荷期間の拡大を目指し、新たな作型の開発をしていきたいと考えている。